

課題名	26. 窒素施用量と温州ミカンの着果について						
成果の要約	着果量の年次変動は、窒素施用量の多いほど小さい。また、裏年及び表年を通じて、着生した花の結実率は、施肥基準量を施用した場合最も高い。						
成績	1. 窒素施用量が芽の種類に及ぼす影響						
	6 1 年 (裏年)			6 2 年 (表年)			
概	処 理						
		発育枝	有葉花	直 花	発育枝	有葉花	直 花
	N0	49.5 (72)	4.8 (7)	14.8 (21)	7.1 (3)	20.4 (8)	231.3 (89)
	N1	58.8 (71)	7.1 (9)	16.3 (20)	2.9 (1)	21.1 (6)	332.4 (93)
	N2	44.4 (51)	15.8 (18)	27.3 (31)	11.3 (3)	25.8 (7)	312.6 (90)
	N3	35.1 (49)	14.7 (21)	21.0 (30)	10.8 (4)	25.8 (9)	239.5 (87)
	N5	18.8 (14)	29.8 (23)	83.3 (63)	22.3 (9)	27.7 (12)	187.3 (79)
N7	29.3 (30)	28.9 (29)	40.4 (41)	18.4 (7)	30.6 (14)	204.8 (79)	
注)	数値は1本の側枝に着生した芽の数を、()内はその割合を示す。						
要	2. 窒素施用量が着果に及ぼす影響						
	6 1 年			6 2 年			
	処 理	(7 月)		(7 月)		(1 1月)	
		有葉果	直花果	有葉果	直花果	収穫果	
	N0	0.1 (2)	0.3 (2)	1.5 (7)	5.4 (2)	3.4 (1)	
	N1	1.4 (20)	0.8 (5)	8.1 (38)	19.9 (6)	14.8 (4)	
	N2	8.5 (54)	5.6 (20)	12.8 (50)	20.3 (9)	9.6 (3)	
N3	9.3 (64)	8.0 (38)	13.1 (51)	22.0 (9)	9.0 (3)		
N5	15.2 (51)	7.5 (9)	10.3 (37)	26.8 (14)	9.7 (5)		
N7	11.3 (39)	9.7 (24)	11.2 (16)	19.7 (10)	14.8 (6)		
注)	数値は1本の側枝に着生した果実の数を、()内はその花数に対する割合を示す。						
	(長崎県果樹試験場)						
普及上の留意点	過度な減肥及び多肥は避けて、県の施肥基準を守る。						